

# 「中秋の名月」と「月下美人」 2

R2 自然を観察してみよう R2,10,1(木)

10月1日(火)は快晴で、夜空にはみごとな満月「中秋の名月」が輝いていました。そしてその日の夜に自宅で「月下美人」という植物が花を咲かせました。

不思議な植物で名前の通りに、「夜に花を咲かせる植物」です。大きな真っ白い花を開き、満月の明かりを受けて、闇夜に浮かぶ姿は日本画のようで優雅であり、20cm以上の大きな花が一夜だけしか咲かない姿は魅力的で、咲き始めから甘い香りを放ち始めて、満開まで数時間なので、観察に適しているのも、古くから愛好家により鑑賞会が行われていたようです。

しかしこの植物は、日本の在来種ではなく、メキシコ原産のサボテンの仲間です。日本に渡って来たのがいつ頃かは定かではないそうですが、江戸時代にはアジア経由で伝わったらしいです。



満月と月下美人 R2,10,1

## ●開花時期・時間 「満月や新月の咲くというのは俗説です。」

もともと熱帯地域の植物ですが、寒さにも強い植物で、6~11月に花を咲かせます。夕方から花が開き始め、夜中に満開となり、夜明けにはしおれてしまいます。昔の書物には「満月や新月の日に咲く」と書いてあるものもありますが、反応はしていません。今回はたまたま10月1日の満月の日に咲きましたが、2日目前と7月に咲いたときは、満月ではありませんでした。

※サンゴや貝、魚類など海の生物の産卵で月の満ち欠けに関係する場合がありますが、これは月や太陽の引力によっておこる潮の満ち引き(大潮など)のサイクルが生活のサイクルに関係しているからだと思います。

## ●なぜ? 夜に花を咲かせるのか

ゲッカビジンは自分の花粉では受粉しても種ができないため、仲間と花粉をやり取りする必要があります。植物の花粉の運び方(受粉の方法)には、風(風媒)や水(水媒)、動物(昆虫、鳥等)、自動(花の開閉)などがありますが、さてどのような方法だと想像しますか?

- 推測ポイント
- ①もともと熱帯雨林の植物
  - ②甘いおいしそうな強い香りを出す。
  - ③闇夜に目立つ大きな白い花を開く
  - ④夜の数時間で受粉しなければならない。

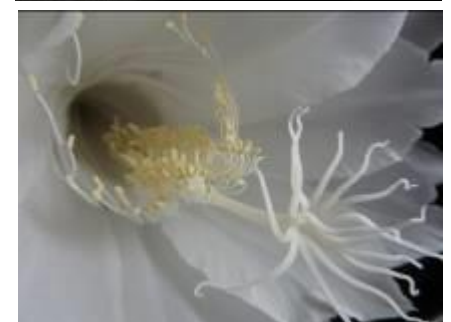
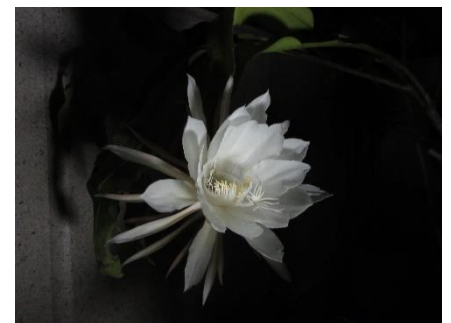
## ●どんな実をつけるのでしょうか?

日本にあるゲッカビジンの多くは、一つの株(個体)から「挿し木や株分けという無性生殖」の方法でドンドン増やしていったと言われ、いわば全部同じクローンです。そのため受粉させても果実ができないそうです。

現在は、他の国から別の株が持ち込まれているらしいですが、果実がなったのを見たことがありません。辞典によると「外国では果実をフルーツとして食べ、花も食用にしている地域がある」と載っているのですが、見たことがないので、どんな形で、どんな味がするのでしょうか?

### 開花の様子

- ①数日前から蕾(つぼみ)が大きく膨らみ立ち上がってきた。
- ②夕方の6時半ころから、甘い香りを放ち始めて、花が開いた
- ③8時には7割程度の開花で、香りはさらに強くなった。
- ④10時には満開、周りには甘い香りが充満、虫の姿は見られない。
- ⑤12時には、まだしっかりと花が開いている。
- ⑥朝の6時には、花はうな垂れて、6割程度にしぼんでいた。



### 【関連する授業】

1年 単元1 植物の世界 1章花のつくりとはたらき  
3年 単元2 生命の連続性 1章生物の成長と生殖



### 【関係する動画】10mini ボックス NHK

「生殖」 [https://www.2nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das\\_id=D0005110134\\_00000](https://www.2nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005110134_00000)